

平成30（2018）年度研究局活動報告

■平成30（2018）年度活動報告

1. 「こくち一ず申込+別送概要文」による研究発表申込を笠原運営委員、北川事務局運営委員の尽力のもとに一元化して、合理的簡素化した申込手続きを行った。集約された個人情報、佐藤仁美研究局員が作成したフォーマットにより安全に管理運営され、関係者の情報共有が図られた。概要文の校正については、藤井運営委員と赤木研究局員が精力的に短期間で実施された。
2. 連合ニュース153号（2018.7）に「第52回日本美術教育研究発表会2018一次案内」、および154号（2018.9）に「第52号日本美術教育研究論集2018【投稿および掲載要項】」、「公益社団法人日本美術教育連合入会申込書（学生・一般）」、「第52回日本美術教育研究発表会2018研究発表申込方法」を、最終案内と研究発表時間割を掲載した。
3. 研究発表申込42件48名があり、前述のように研究局の役割分担と各担当者のご尽力により、支障なく実施に向けた業務が遂行された。個人情報も安全に管理され、必要な情報が担当部署で共有され、次年度も同様に実施することを予定している。課題として、発表資格である会員登録を発表直前にならないよう事前の手続きを発表者に促すことを図りたい。
4. 2018年10月14日(日)に東京家政大学板橋キャンパス16号館にて、第52回日本美術教育研究発表会2018を開催し、研究発表41件47名と103名の参加があった。家政大からは、手嶋尚人家政学部長が来賓として参加を賜り、終日各研究発表と懇親会に参加された。畑山未央事務局局員が懇親会の準備を手配し、支援学生の協力で親しく交流する盛会となった。
5. 小林論集編集委員長、立川次期論集編集委員長のもと、研究誌編集委員会が開催され、慎重な査読審議によって、I群（理論・実践研究）9件、II群（実践研究報告）16件、III群（研究ノート）4件が通過し、『第52号日本美術教育研究論集2019』を平成31（2019）年3月31日に刊行、会員に頒布された。
6. 一昨年度の韓国大邱でのInSEA世界大会、昨年度の欧州会議（フィンランド）、アジア会議（香港）での様子から、まもなくInSEAアジア評議会が創設される。久しく日本における海外研究者の発表が行われていない中で、その開催が期待される状況が生まれている。そこで、InSEA-Japanとして、日本美術教育連合が本年度「第53回日本美術教育研究発表会2019」で海外研究者ポスター発表部門を立ち上げるため、国内外に広く告知を行いながら実施に向けた準備を開始した。

■令和元（2019）年度活動計画（令和元（2019）年度第9回定時総会にて報告）

1. 研究局は「美術教育に関する研究発表会の開催並びに研究論集の刊行」（定款）を行う。
2. 第53回日本美術教育研究発表会2019を令和元（2019）年10月13日、東洋大学で開催する。
3. 『日本美術教育研究論集2020__No.53』を令和2（2020）年3月31日刊行、会員に頒布する。
4. 第53回日本美術教育研究発表会 第1回国際ポスター研究発表部門を実施する。
5. InSEA JAPANのホームページにおける研究局の掲載内容を検討する。